

学校教育課だより

# かけはし



学校教育課だより  
「かけはし」  
【第9号】  
令和3年  
2月22日発行  
御殿場市教育委員会  
学校教育課

## みんなで学ぼう、生涯教育

社会教育課長兼青少年センター所長



山崎 和夫

二回目の緊急事態宣言が発出されるなど、今年度は新型コロナウイルスで振り回された一年でした。社会教育の分野からみると、様々な事業が感染防止のため、中止や縮小を余儀なくされ、市民芸術祭ごてんばDONDON、成人式なども中止や開催変更をするなど、多くの市民に影響がありました。

「芸術・文化活動は、練習をしなくても発表の期間がなくなり、

二回目の緊急事態宣言が発出されるなど、今年度は新型コロナウイルスで振り回された一年でした。社会教育の分野からみると、様々な事業が感染防止のため、中止や縮小を余儀なくされ、市民芸術祭ごてんばDONDON、成人式なども中止や開催変更をするなど、多くの市民に影響がありました。



市内には、学習ボランティアアセンターが主催している「ひろがり学習塾」があり、多くの市民の学びの後押しをしています。また、芸術・文化活動は、市文化協会や市民会館を中心に行っています。

とは、私たちが生涯に亘って行う学習活動です。私たちは生まれるとすぐに、家庭を中心とした学習を始めます。これが「家庭教育」です。やがて、学校に通い、学習する事柄を広げていきますが、これが「学校教育」です。そして、社会に出ると、仕事に関わる学習や、豊かで充実した人生を送るための学習を行うことになりま

す。このように、家庭・学校・職場・地域社会で行われる全ての学習を「生涯学習」としてとらえることができ、生涯学習は、私たち一人一人の生きていく姿そのものに深く関わっていると言えます。

他にも生涯学習の活動として、文化活動、レクリエーション活動、趣味の活動、ボランティア活動などがあり、多くの人がやりたいと感じているのではないのでしょうか。

さらに、市では令和三年四月に御殿場駅富士山口に新たな施設として、「富士山市民のサロン」をオープンすることになりました。この施設の目的は「市民の生涯学習及び多様な世代の交流を促進し、社会教育の推進を図る」となっています。子育て世代から中高生、社会人、高齢者まで全ての世代を対象とした施設です。ぜひ、生涯学習活動にこの施設を活用してみてください。

原里地区三園一小による  
幼小の滑らかな接続研修  
幼稚園指導員 瀬戸 亮策



ゆかり先生、コマのひもはこう巻くよ。

一月二十九日、新型コロナウイルスの影響で小学校と幼稚園・保育園との交流が難しい中、アプローチ期を迎えた原里幼稚園年長児の公開保育に、原里小学校の多くの先生方が参加してくれました。

保育のねらいは、「小学校の先生と一緒に遊んだり触れ合ったりし、学校生活に期待や安心感を持つ。」でした。園児たちは、縄跳びやコマ回し、けん玉、あやとりなど自分たちの得意なことを見てもらったり、「すごいね」「上手。」とほめてもらったりして大喜びでした。また、一緒に遊んだり質

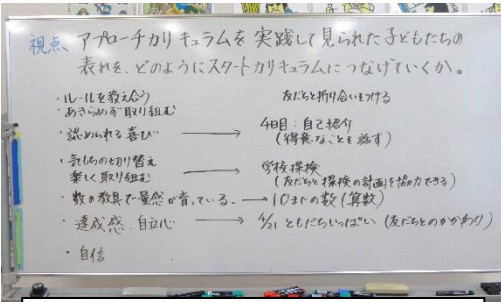
子供の姿を付箋紙に貼出す



間に答えてもらったりしたことでたくさん先生の先生方を知り、楽しみや安心感と共に小学校が身近に感じられたようでした。

原里小の先生方は、参観するだけではなく園児と実際に触れ合うことで、文字や数遊びを楽しんだり、ルールを作ったり譲ったりする姿からアプローチ期の園児をよく知る機会になったと思います。

この日の午後、原里小を会場に二園一校の先生方が集まり、合同の研修会を行いました。最初に公開保育に参観していない先生方にも活動の様子が見えるように、ビデオを全員で見ながら園児の姿を受けとめてもらいました。その後、六グループに分かれ、幼稚園と小学校の先生方が一緒に次の二点をじっくり話し合いました。



6グループの発表から出された様々な意見

一つは、園児の表れを「幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿」を手掛かりにして話し合いました。

園児の表れをそれぞれに付箋紙に書きながら貼っていくと、多くの先生が目で見ているので、一つの活動の中にもいろいろな姿を見つけることができました。「幼児期の終わりまでに育ってほしい十の姿」を幼小の先生方で一緒に考える貴重な時間でした。

もう一点は、原里小で作成したスタートカリキュラムと照らし合わせながら園児の姿がどの場面につながるか、どんな姿が期待されるかを話し

合ったことです。園児の姿をもとにスタートカリキュラムの整合性や見直しにつながり、全体で確認できたことは研修をさらに深めることにつながりました。

四月になると、入学した一年生の様子を、今度は幼稚園の先生方が見に行きます。その後、アプローチカリキュラムの効果やスタートカリキュラムの有効性を一緒に検証し合うことで、滑らかな接続がきつと深まると思っています。

原里地区の幼小がお互いを知り、継続的に交流することがお互いのメリットになっていることは確かです。これからも御殿場市の幼小接続のモデルとして、積極的に保育公開・授業公開をしていただけることを期待しています。

(二園とは 原里幼稚園 原里西幼稚園)

今年度の年度当初、新型コロナ感染症対応で、幼稚園小・中学校は二か月余りの長

**就学支援(園関係)**  
**就学支援指導員 岩瀬和代**  
 こんな時だからこそ

期臨時休業となりました。二か月間、足踏み状態だったことで、園や学校では、個々の実態把握や踏み込んだ就学支援・就学相談が思うように進まず、苦慮されたことがうかがえます。

園関係の就学支援は、例年と比べ、コロナ禍の今年度は以下のような傾向が見られました。

- ・支援学級判定の園児が、通常学級に就学する割合が大きい
- ・専門調査・専門面談に至らない園児が多い
- ・専門調査、学校見学、就学相談等が、十一月にずれ込んだ園児が多い

このことから、例年以上に、入学後、個別の支援を必要とする新一年生が多くなると予想されます。一人一人が安心して、スムーズな小学校生活をスタートできるよう、園から小学校へのより一層、丁寧で、きめ細かい引継ぎや情報交換、受け入れ態勢づくりが必要となってきました。

また、どの子も、保護者にとってかけがえのない存在であり、保護者の方は、長い間、模索し、迷い悩んだ末に就学先の決断をしていくことがわかります。入学という大きな環

境の変化に、果たして我が子が適応できるのか、大きな不安を持たれています。一方で、「わが子にとってより良い教育環境を。」と、引越しても辞さない覚悟で、学校・学級を選択される保護者も増えていきます。不安以上に期待をもって就学先を決断されているのです。

これまでも、そんなお子さんや保護者の思いや困り感を真摯に受け止め、園や学校の先生方、発達相談センターの臨床心理士をはじめとする、関係機関の方々が連携し、寄り添い、「情報共有」二学校見学「就学相談」等の就学支援を重ねてきてくださっています。長い年月をかけ、多くの方々がかわり、小学校での就学先の決定に至っています。当然、「その子にとってより良い就学先」を保護者を中心に、みんなが共有している結果です。

今年度、年度当初こそ出遅れた感がありますが、対応の難しいコロナ禍のこんな時だからこそ、「できる時に、できることを、できるだけ」という、例年以上に真摯な姿勢で、尽力くださった園、学校、関係機関の方々の、御理解・御協力に感謝いたします。